

Broaden your horizons ⑦1 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。
ペットもうつになる時代? 近年、ペットのうつ病が増加していると、獣医の友人から聞きました。

実例1 2匹の猫を飼っているOL。オス猫を可愛がっている
と、ゾットするような視線を感じた。怖々振り向いてみると、メ
ス猫が柱の陰から片目だけ出し、“家政婦を見た”かのように、2人の様子をじっと
見つめていた……。愛情を独占できないストレスからOLさんの布団や洋服、洗濯物
に排尿、排便する。獣医の診断は、「分離不安症」。

猫は群れるのが苦手な動物なので、2匹以上を狭い家で飼うとストレスを感じる
そうです。こんな怖い状態が続けば、飼い主も限界になりますよね。そこで、クロミ
ブラミン塩酸塩の投与に踏み切りました。ただ、犬への投与は日本でも認可されて
いますが、猫への投与はオーストラリアで許可されているものの、アメリカや日本で
はまだ認可されていません。正直にそのことを飼い主に伝え、飼い主の判断で投与
を開始したそうです。

実例2 生後2カ月でペットショップから購入してきたオスの柴犬。飼い主宅に迎え
られて数カ月経った頃から、自分の尻尾を追うようになる。最初は遊んでいるよう
な様子で気にならなかったが、次第にほえ声も加わる。さらには、尻尾を追って激し
く回り始め、ついに尻尾をかじって傷つけるように……。かじった尻尾が半分になっ
たことから、病院に連れて来られた。獣医師の診断は、人間で言う強迫性障害の一
種「常同障害」。この犬もクロミブラミン塩酸塩が処方される。初診から2カ月後
には、尻尾を追う行動がほとんど見られなくなったという。

犬は投与量が多いため、ヒト用を使えますが、猫は投与量が少ないため、動物用
のクロミブラミン塩酸塩を使うそうです。犬にヒト用を使うのはヒト用の方が仕入
れ値が安いからと裏情報も添えてくれました。犬と猫の投与量は同じだろうと思
いましたが、全然違うそうです。驚き!

皆さんのお宅のペットは、大丈夫でしょうか? うちのペットは……今のところ大
丈夫そうです。ウーパールーパーなので、いつものんきに暮らしています(笑)。